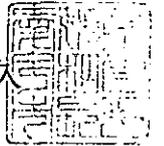


宇建設第 2126 号  
平成 20 年 10 月 10 日

国土交通省道路局長 様

宇和島市長 石 橋 寛 久



今後の道路行政についての意見・提案について

平成 20 年 9 月 19 日付け 国道企第 37 号にてご依頼のありました標記のこと  
につきまして、別紙のとおり回答いたします。

## 今後の道路行政についての意見・提案

### ①道路行政全般について改善すべき点、要望や意見など

愛媛県 宇和島市

様式 ①

- 道路を作る際の指標として、費用対効果がクローズアップされ、「真に必要な道路は作るが、必要ない道路は作らない」と言った議論をよく耳にする。交通量や人口といった指標だけに重点を置いたら、人口が減少している地方にとって不利である。地方には鉄道やバス・電車などの公共交通機関が無いところが多く、移動手段として車は不可欠であり、1家に数台の車を保有している家庭が多い。代替交通手段はあるか・救急車・消防車は通行できるか等、道路が必要かどうかの判断材料の再検討を行ってほしい。道路を人の体に例えるなら、大動脈が高速道路・国道で、市町村道は毛細血管と言ったところだろうか。細胞が活動をする上で毛細血管は必要不可欠なものであり、地方にとって必要ない道路など存在しない。地方自治体にとって、救急車や消防車が通行できる道路を作ったり、現状の道路の維持補修をすることは、住民が生活をしていく上で必要不可欠なことである。地方にとって必要な道路か否かは、政府や国会議員が判断するのではなく、住民の生活の暮らしに一番身近な地方公共団体がすべきである。そのためには、補助金としてではなく、地方の裁量・判断で道路整備・補修ができるよう、地方への道路財源の移譲を拡大してほしい。
- 第一次産品の輸送・救急医療などの観点から地方にも高速交通体系は必要である。せめて地方の主要都市まで車で1時間の移動ができるよう整備を進めてほしい。
- 国の補助基準を全国一律・大都市も地方も一緒ではなく、地方の実情に合ったものにしてほしい。
- 大規模林道や農道は農林水産省、一般道路は国土交通省と所管が分かれているが、道路の所管・窓口を国土交通省に一本化すべきである。こんな田舎に…と批判される道路一般道路以外の道路が多い。
- 道路特定財源の用途について色々批判されないよう、国土交通省所管の公益法人の見直しをすべきである。

○現状

- ・ 宇和島市以南には鉄道がなく、地域生活は国道 56 号のみに依存せざるを得ず、宇和島市内（特に知永～高串・保田以南）は朝夕慢性的な渋滞となっている。また、国道 56 号の代替路線がないため、近い将来起こるとされている南海地震・東南海地震が起こった時に陸の孤島になる恐れがある。
- ・ 宇和島圏域は温暖な気候や豊かな自然を活用した第一次産業主体の地域であるが、第一次産品の価格低迷による後継者不足や耕作放棄地の増大により、当地域を牽引してきた農林水産業は衰退傾向にある。さらに商店街の空洞化や事業所の撤退による雇用の場の喪失によって圏域産業を取り巻く情勢は大変厳しい。

○課題

- ・ 優れた自然資源や伊達家ゆかりの歴史資源、闘牛や牛鬼、食資源をはじめ、多彩で魅力ある観光・交流資源を有しているが、その素材を生かしてきれていない。
- ・ 本市の経済を立て直すためには、全国第 1 位の生産量を誇るマダイ養殖やおいしく安全な柑橘類の流通活性化や観光の振興・交流人口の増加が必要不可欠であるが、それを実現するための高速交通体系が整備されていない。

## 今後の道路行政についての意見・提案

### ②-2 地域の目指すべき将来像

愛媛県 宇和島市

様式 ③

平成17年8月1日に、旧宇和島市、旧吉田町、旧三間町、旧津島町の4市町の合併によって新しい「宇和島市」が誕生。新市の基本理念に「人と交わり、緑と話し、海と語らう きらめき空間都市」を掲げ、将来像を自立・共生・協働のまちと定め、地域の多様な主体が、足りないところをお互いに補い、助け合いながら真に自立した地域経営を行うことを目指し、恵まれた自然と共生し、先人たちのように地域特性を生かしたまちづくりを推進することにより、新たなにぎわい、やさしさあふれるまちを創り出していき、四国西南地域の中核を担っていくことをうたっている。

